

▼今月の『ポピー』の国語で学習するおもな内容と大切なことがらです。

📖の数字は、教科書のページ数です。

2年 ふきのとう

📖 13～27

春風 お日さま 竹やぶ ふきのとう



- ・雪の下でふんばって
いる。
- ・春風がこないのど踊
れないと残念がる。
- ・寝ぼけ方をしている春
風を起こす。
- ・胸いっぱい吸いこ
んだ息をはく。

●ふきのとうを中心に、春を告げるものた
ちの喜びを描いたお話です。

●場面の様子や人物の気持ちを想像しながら、登場人物の
気持ちを読み取ります。

1年 いいてんきうたにあわせて あいうえお

📖 1～25

字を書くときは、**ていねい**に、
ていねいという気持ちを
もたせることが大事だワン。

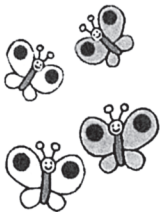


- 絵を見て気づいたこと・想像したことを
伝え合い、「話す・聞く」の勉強をします。
- 姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて、線
をなぞります。
- 自分の名前を書く練習をします。
- 「あいうえお」の文を、発音に気をつけて
読んだり、「あいうえお」を書き順に注
意して書いたりします。

4年 白いぼうし

📖 15～29

- ・松井さんが、道に白い帽子が落ちてい
るのを見つけた。
- ・帽子をつまみ上げると、白い蝶が逃げ
出した。
- ・蝶の代わりに夏みかんを入れた。
- ・車の中に女の子が座っていた。
- ・女の子がいなくな
ってしまい、
蝶がたくさん飛
んでいた。



●タクシーの運転手の松井さんが見つけた白
い帽子にまつわる物語です。

●場面の様子や人物の気持ちを読み取りま
す。

3年 きつつきの商売

📖 15～29

野ねずみたちは、雨の音に
つつまれたんだよ。



- きつつきが始めた「おとや」についての物
語です。
- どんなお客に、どんな音を聞かせたかに
気をつけて読みます。
- 1 野うさぎは、ぶなの音を四分音符分
たのんだ。
- 2 ぶなの森に、雨が降り始めたとき、
きつつきは新しいメニューを思いつい
た。
- 野ねずみの家族に、特別メニューの
音を聞かせた。

6年 帰り道

📖 17～33

ものの見方や
考え方は、
人によって違っ
たものね。



- 学校からの帰り道、気まずい気持ちを抱
える律と周也の物語です。
- 同じ場面が、前半は律の視点から、後半
は周也の視点から語られます。
- ・二人のものの見方や考え方を想像しま
す。
- ・視点によって、相手の見え方が違っ
たととらえます。
- ・自分ならどう感じるかを考えながら読
みます。

5年 なまえつけてよ

📖 17～31

紙の馬には、「なまえ
つけてよ。」と書いて
あったんじや。



- 春花と転校生の勇太が、子馬の名前をめ
ぐって初めて触れ合う物語です。
- 場面の様子やその時の心情を想像して、
二人の関わりの変化を考えます。
- 1 学校の帰り道、顔見知りの牧場のお
ばさんに、子馬の名前をつけてと頼ま
れた春花は、弟を連れた勇太と出会う。
- 2 子馬は、もらわれる先で名前を付け
られることになった。
- 3 勇太は、春花に、紙で折った小さな
馬を渡す。